

学校運営協議会だより

第4号 2024.2.1

1月31日（水）に開催した今年度最後の学校運営協議会の内容についてお知らせします。

1 山口県学力定着状況確認問題（10月）の結果について

- 中畑研修主任が、資料をもとに説明しました。

2 第2回学校評価アンケートの結果と学校評価書について

- 田中が、資料をもとに説明しました。

3 学校・地域連携カリキュラムについて

- 石田教頭が、資料をもとに説明しました。



4 来年度の行事予定について

- 大迫教務主任が、資料をもとに説明しました。

5 今年度の活動の振り返り

- 委員の皆様全員からお気づきをいただきました。
 - ・学力調査については、毎年児童が変わるので、毎年結果が変わるが、日々の積み重ねが大切である。
 - ・「ろうか歩行」や「黙って掃除」については、繰り返し指導するとよい。ほめることで児童は成長するので、ほめて伸ばしていくことが大切。
 - ・小中一貫教育については、連携がよく取れているように感じる。
 - ・「学校・地域連携カリキュラム」は、字の大きさも含めて、もう少し見やすいものになるとよい。
 - ・あいさつは、長期休み明けに声が小さくなることが多いが、学校が始まると少しずつ声が大きくなっていくので、先生方のご指導のおかげだと思う。
 - ・学校評価アンケートで、「友達と仲よくする」の肯定率が高いのはとてもよい。友達と仲よくすると社会性が養われるので、これからも続くとよい。
 - ・学校だよりは、学校の様子がよく分かるので、毎月楽しみにしている。
 - ・コミュニケーション力は、情報が一方通行で入ってくるだけでは高めることができないので、話し合い活動などを充実させるとよい。
 - ・コロナが五類に移行され、地域との交流が復活してきているのがよい。様々な形での交流が考えられるので、もっと交流の場が増えるるとよい。

- ・サマースクールの指導に地域の方に入っていただくのもよいと思う。（安全面への配慮が必要）
- ・生徒指導は児童の自立を支援するので、その取組の中に読書活動が含まれていることはとても意義がある。
- ・チャレンジ目標の「ニコニコあいさつ」「テクテクろうか」「モクモクそうじ」は、具体的な取組が示されると、児童の意識も少しずつ変わると思う。
- ・家庭学習強化週間で、中学生の試験期間中に小学生も一緒にがんばるのはとてもよい。ノーメディアについても、小・中学校が一緒に取り組めるとよいと思う。
- ・「腑に落ちたこと」はしっかりと取り組めるので、時にはなぜそれをしないといけないのか児童に納得させる指導も大切だと思う。

6 岩国市教育委員会より

○ 生涯学習課の大上アドバイザー、平畑社会教育主事からご指導をいただきました。

- ・学校運営協議会に教職員の参加が多いのは、とてもよいことだと思う。
- ・様々な立場の人が発言し、多様な考えを聞くことがとても重要である。
- ・地域の方の視点は、学校の教職員が気づきにくい点でもあるので、様々な立場の人が意見を出し合う（異質なものと出会い、混ざり合う）ことが大切である。
- ・大人が子どもの憧れになれるように、様々な生き様を見せることが大切である。（親や教師ではなく、ワンクッションおいた立場で、子どもの心に寄り添ったり、時には厳しく叱ったりする「意味ある第三の大人」の存在）
- ・ホームページがよく更新されている。学校運営協議会の内容も掲載されているのもよい。
- ・できていることをほめるのは大切だが、子どもを伸ばす上で、そのほめ方も重要になってくる。（全体で、個別に）
- ・チャレンジ目標を達成するために、どうしたら達成できるかを児童に話し合わせてみるのもよい。



今年度の学校運営協議会は今回で最後になります。ご協力ありがとうございました。